

「キワニスドール」 普及へ共催シンポ



闘病生活を強いられた子供たちに寄り添う心強い味方「キワニスドール」Ⅱ写真下Ⅱの普及を目指す「第4回キワニスドール・シンポジウム」が16日、東京・大手町のパソナグループ本部ビルで開催された。

社会奉仕団体「キワニスクラブ」の横浜、東京、千代田の3地区のクラブが共催し、会場には、ドールを制作し医療機関などに寄贈するキワニスクラブ会員や田園調布学園家庭部の女生徒らボランティアグループと、医療関係者などドールを受け取って活用する側の計約150人が参加。病院や障害児支援などでのド



ールの活用例などが報告されたほかデイスカッションも行われ、病氣と闘う子供たちをドールを通じ、いかに支援するか現状や課題などを協議したⅡ同右。

キワニスドールは縦約40センチ、重さ約50gの無地の人形で、医師や看護師が子供に病氣や治療の説明をする際に使う。子供たち自身や親、看護師らが人形に思い思いの顔や服を描くことで子供の心強いパートナーに

もなるため、年々活用例が広がっている。田園調布学園のほかにも東京愛育苑金町学園なども制作ボランティアに取り組んでおり、昨年は白血病と闘う子供と父親を描いた連続テレビドラマにも登場した。